

土木研究所資料第 4332 号  
河川堤防の液状化対策の手引き（平成 28 年 3 月）  
正誤表

## Ver. 20160610（印刷版）からの正誤表／修正内容

位置	正／修正内容	誤
p.38 図-5.3	（下から 2 つ目の枠内） 目標 $N$ 値 $N_1$ と	目標 $N$ 値 $N_1$ <u>細</u> と
p.47 図-6.5	白抜きの「45 度」削除	-
p51 式(6.10)	$P_{dw}(z) = \alpha_{ds} \frac{7}{8} \cdot k_{hr}(z) \cdot (\gamma_w + \gamma' r_u) \sqrt{H_d \cdot (z - D_w)}$ z: <u>地盤面</u> から深度(m)	$P_{dw}(z) = \alpha_{ds} \frac{7}{8} k_{hr}(z + D_w) (\gamma_w + \gamma' r_u) \sqrt{H_d z}$ z: <u>地下水位</u> からの深度(m)
p51 下から 2 段落目	低減係数 $\alpha_{ds}$ の一般値は、・・・(中略)・・・ 振動成分と慣性力、土圧係数に用いる震 度と同じ低減係数・・・	低減係数 $\alpha_d$ の一般値は、・・・(中 略)・・・振動成分と慣性力と同じ低 減係数・・・
p52 表-6.4	（主働土圧係数の記号 $\theta$ の説明） $\theta = \tan^{-1}(\alpha_{ds} \cdot k_h)$ もしくは $\theta = \tan^{-1}(\alpha_{ds} \cdot k_h')$	$\theta = \tan^{-1} k_h$ もしくは $\theta = \tan^{-1} k_h'$
p.66 (5)	液状化層/準液状化層/非液状化層を区分 し、7.5(2)、7.6 の方法に従って、	液状化層/準液状化層/非液状化層を区 分し、7.5、7.6 の方法に従って、
p.70	文献番号削除	
p.140 中央	ならびに液状化対策に特化した大型の 浸透改良の工法まで様々ある。	ならびに液状化対策に特化した大型 の浸透改良の工法までまで様々ある。

## Ver. 20160415 からの正誤表／修正内容

上記に加え、以下の項目

位置	正／修正内容	誤
全体	誤字の修正 図・表を見やすく修正	
p.118～	ページ番号の修正	
p.123～ 146	図-9.3.14 以降の図番号の修正	図-9.3.14 が重複
p.47 図-6.5	盛土の自重による鉛直荷重を算出する 範囲を表す範囲を削除	-

※Ver.は、本文最後のページでご確認ください。